

「機能を中心とした図説組織学」第4版

Wheaster's Functional Histology, A Text and Colour Atlas, 4th ed.

Barbara Young

著

John W. Heath

監訳

山田 英智

訳

山田 英智

石川 春律

廣澤 一成

澤田 元

防衛医科大学校教授・解剖学第2講座

依 藤 宏

B. Young, J. W. Heath 著・山田英智監訳の「機能を中心とした図説組織学」に改訂第4版が出た。この本は図説とあり、原著にも Text and Colour Atlas とあるように単なる図譜ではなく、光学顕微鏡写真、電子顕微鏡写真および理解を助ける模式図にはそれぞれ要を得た適切な長さの説明がついている。また各章の始めにはその章の内容の理解に必要な事項の説明があり、細部にとらわれて全体を見失わないための配慮もなされている。そしてさらには「機能を中心とした」とあるように各部位の解説も形態のみの説明だけではなく、機能から構造を理解させようという試みが随所に盛られている。この本が今回改訂になって大きく変わった点はまず、判型が B5 から A4 判へと大きくなったことである。これによりページにゆとりができ、見出しも網掛けや線で囲むなどの工夫がなされ、大変見やすくなっている。加えて、説明文中のキーワードが太字に変わり、ある術語を索引から検索する場合にも短時間で探し当てることが可能となった。さら

には模式図がカラー化されて一段と理解しやすくなり、また組織切片だけではわかりづらいところには新たに概念図を挿入したり、まとめの表を追加するなど、種々の学習者の理解を助ける手だてが加わっている。

第一部「細胞」の章では総合的理解のため、以前章末にあった光学顕微鏡写真を電子顕微鏡写真と組み合わせ配置しているほか、アポトーシスの機構など新たな分野の解説も取り入れている。このような学問の進歩も進んで取り入れる姿勢はこの種の本としては頻繁な改訂(原著で6~8年ごと)に現れている。もともとこの本は組織学を機能とからめて楽しく理解できるようにとの意図の元に書かれた本であるが、今回の改訂で学習者にとりさらに使いやすい本となっている。

ところで、医学教育は現在大きな転換点を迎えている。解剖学は従来のカリキュラムから大幅に時間数が削減される大学が多く、組織学も要点を要領良く短時間で身につけさせる必要がでてきているほか、器官別に病理学、臨床の科目と組み合わせ

た統合型のカリキュラムとなる所も多い。このような解剖学教育の現状からこの本を見てみると、本書は機能面を重視しながら構造を理解しようとしているので、統合型の学習にも向いており、さらには索引がこの種の本としては他に比肩するものがないほど充実している—項目数は和文、英文ともにそれぞれ2,000以上—ので、学習の途中で疑問のた項目を探したいという例えばチュートリアルシステムのようなタイプの学習においても大いに役立つことを意味している。この本は著者が学習者の理解を第一にして書き著し改訂した優れた組織学の図譜兼教科書であり、内耳などの特殊な部分を除いて光学顕微鏡写真はすべてヒトを材料としていることから、学生のみならず組織学を再度見直そうという人には是非一度手に取って頂きたい本である。

● A4 頁448 写真139 カラー写真586 色図134 2001 定価(本体9,500円+税) 送料実費

医学書院 刊(☎ 03-3817-5657)